

せりぬま  
**圃場整備事業**  
**芹沼地区（平成18年3月完成）**

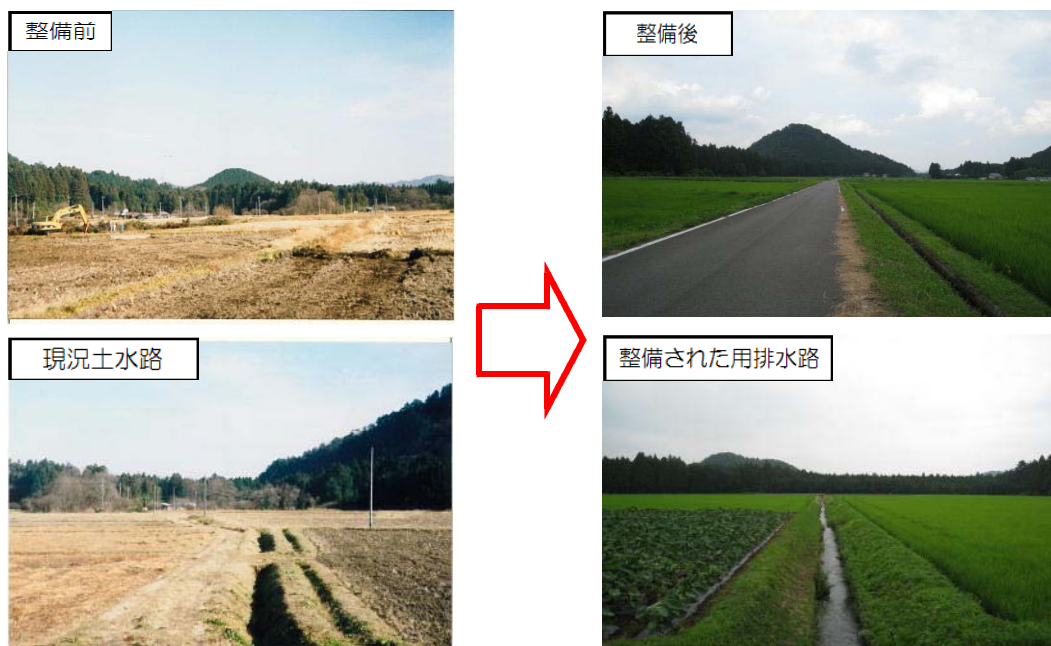
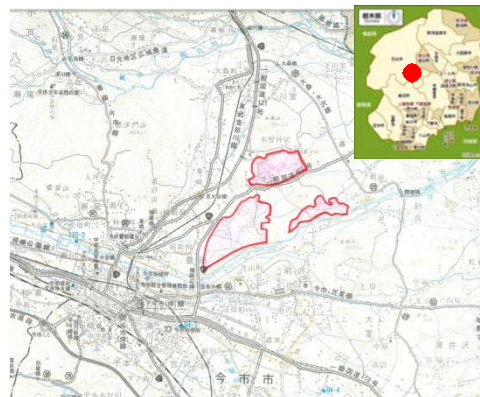
### 1. 事業概要

本地区は、日光市の東部に位置し、一級河川大谷川に広がる水田地帯で、標高は316m～319m、地形は1/100の勾配を有し、水稻を中心とした地域である。

農地は20アール程度の不整形な水田が大部分を占め、道水路も狭小で屈曲し整備されていないことから、効率的な営農が困難な状況にあり、農業生産基盤の整備は重要な課題となっていた。

このため、農地の大区画化と併せて担い手への農地集積を推進し、排水条件の改善による農地の高度利用と生産性の高い農業構造の確立を図る事を目的として圃場整備事業を実施した。

事業名	県営圃場整備事業		
事業主体	栃木県		
事業箇所	日光市芹沼、豊田、町谷		
受益面積	128ha		
受益者数	90人		
整備内容	整地工 128ha	用水路工 17.4km	道路工 15.4km
	排水路工 12.0km		
総事業費	14.2億円		
事業期間	平成10年度～平成17年度		



### 2. 事業費等の変化

① 項目	事業採択時	事業完成時	増減
受益面積	140ha	128ha	△12ha
総事業費	18.7億円	14.2億円	△4.5億円
工期	H10～H14	H10～H17	

受益面積の減については、後継者不足による投資意欲の減退により、12haの減となった。また、事業費についても受益面積の減に伴い、4.5億円の減となった。

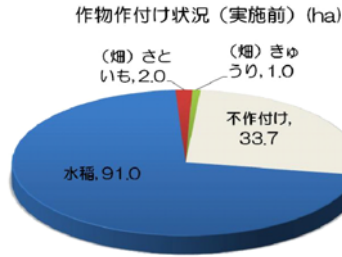
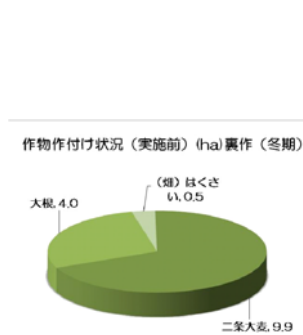
## ②農作物の作付け状況

事業実施前はおおむね水稲単作の状況であったが、圃場整備事業により大型機械及び施設園芸の導入が可能となり、転作作物として、大豆・ソバ・イチゴ等が計14ha作付けされるようになった。

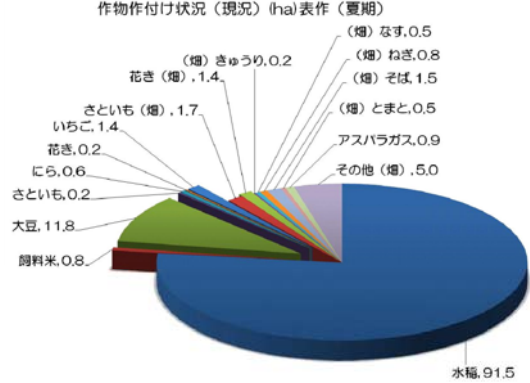
特に大豆・ソバについては、集落営農組織による作付が年々増加している。

耕地利用率 [実施前] 85% → [現在] 97%

[平成9年度 実施前] 単位：ha



[平成23年度 現在] 単位：ha

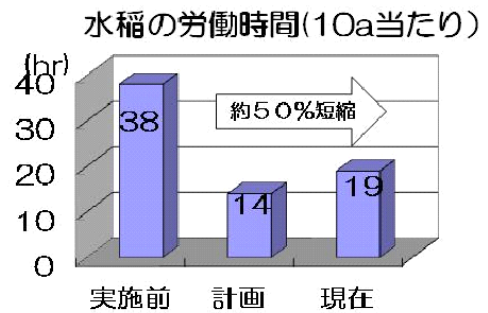


## 3. 事業の整備効果等



### ①農作業に係る労働時間の短縮

事業により農地の集団化、大区画化が図られ、大型機械の導入等により農作業に係る労働時間が約50%短縮された。

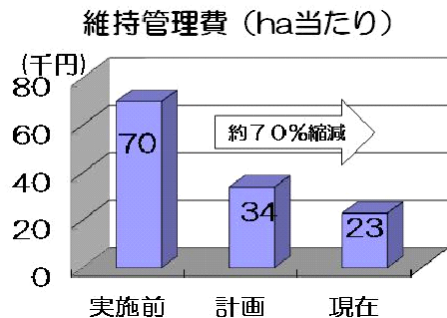


(担い手農家聞き取り)

### ②維持管理の軽減

用排水、道路の整備により、施設に係る維持管理費が約70%縮減されている。

維持管理費： 70千円/年(実施前)  
↓  
23千円/年(現在)



(日光市土地改良区聞き取り)

### ③事業を契機とした担い手への農地集積の状況

農地の大区画化や大型機械の導入が可能となり、効率的な農業経営が可能となったことから、担い手農家への農地集積も進み、経営基盤の強化が図られている。

また、担い手が中心となり平成18年12月に芹沼グリーンファームシステムを設立し、集落営農を推進している。



	[整備前]		[現在]
地区内経営面積 (ha)	20ha	→ 約2倍 →	37ha
地区内農地集積率 (%)	15%		29%

#### 4. 事業により整備された施設の管理状況

水路は日光市土地改良区が管理者であり、組合員が年1回の土砂さらいや除草等を実施するなど適切な管理が行われている。

農道は管理者である日光市が適切に管理を行い、日常の除草・清掃作業等は日光市土地改良区が行っている。



#### 5. 事業実施による環境の変化

事業実施により、狭く屈曲していた農道が整備されたことで通勤・通学など地域の生活道路としても利用されるなど、利便性が向上している。

また、施設園芸が導入されたことに伴い、いちごの直売所・観光農園ができ、いちご狩りも楽しめるようになったほか、いちごを利用した加工品の販売にも取り組んでいる。県内外から多くの人々が訪れ、立地条件を生かした観光産業や農商工、観光の連携での第六次産業も芽吹き始めている。



#### 6. 社会経済情勢の変化

特になし

#### 7. 今後の課題等

- ①農業を支える生産基盤の環境は整ったことから、今後、より一層の農地集積、転作作物の導入などの高度利用、さらには農業用施設の維持管理体制の整備等、地域で一体となった推進が必要である。
- ②アンケート調査から一部の湿田や用水不足、生活道路の安全対策の充実などの意見が出されており、今後、より一層効果発現が図れるよう、対応策について改良区等を中心とした取り組みが必要である。

#### [参考：アンケート調査結果について]

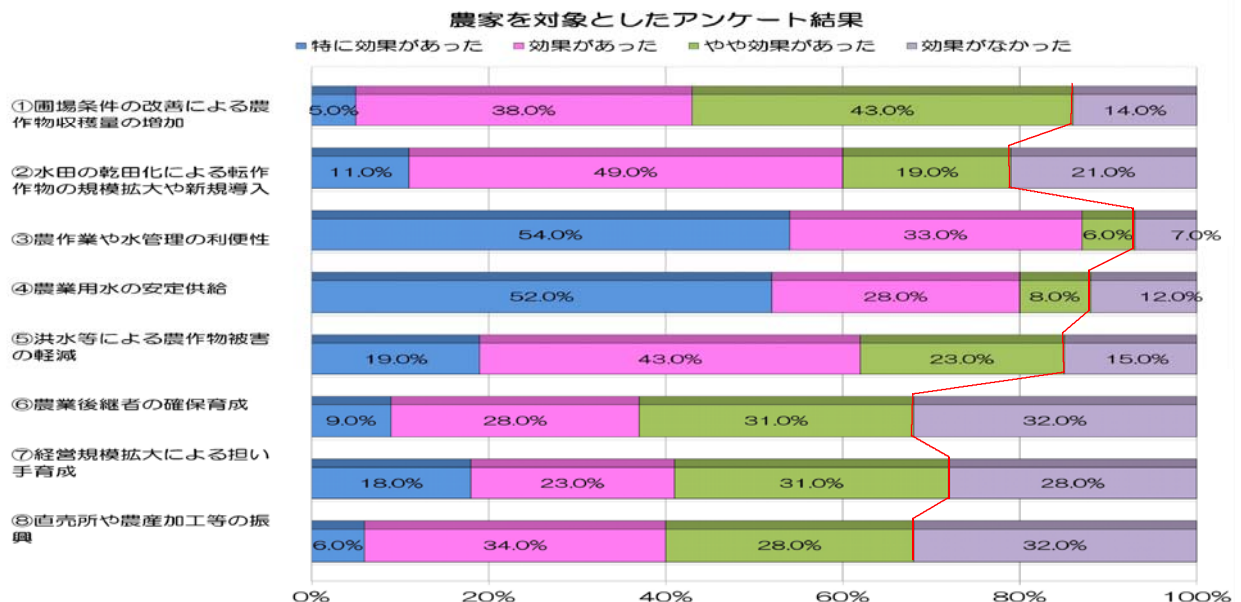
本地区内の農家、非農家を対象に事業の実施に対する効果の発現状況について調査を行った。

(配布戸数 91戸 回答 88戸 回答率 97% H23. 7実施)

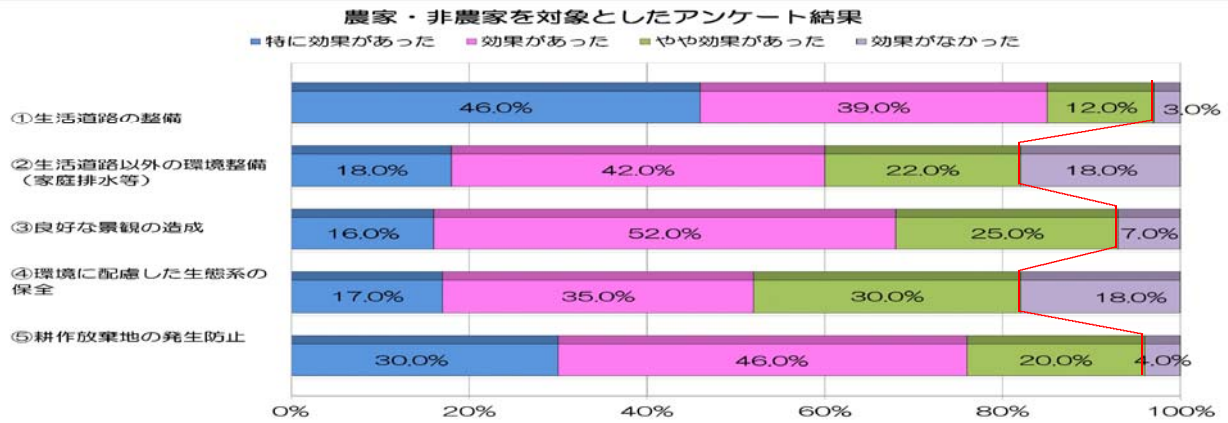
[アンケート結果から考察する地域住民の事業に対する評価]

事業の実施により、農業用水の安定供給と農作業や水管理の利便性について、高評価を得ている。また、生活道路の整備についても高評価を得ている。

#### ①農家を対象としたアンケート結果



## ②農家・非農家を対象としたアンケート結果



## ③自由意見

### 【農家】

- ・土地境界・水田面積が正確になったので、財産管理がしやすくなった。
- ・畦畔の大きくなる場所は、芝の植付けなどを事業に取り入れる必要があると思う。
- ・道路が整備されたことで、作業能率が上がった。
- ・営農集団の確立により、農作業の省力化と機械の共同使用が図られ、個人の機械購入費用が少なくなった。農業所得も以前よりは多くなってきている。
- ・用水路の断面が小さいため、よく水があふれる。もう少し断面を大きくして欲しい。
- ・面積が広すぎて水管理が大変だ。
- ・大型機械の導入が容易になり、道路も整備されたため、借り手が容易に見つかるようになった。
- ・水路に大量の水が流れているので、小水力発電を試みてはいかがか。
- ・川だったところが水田になったため、ぬかるんで作業がしにくい。
- ・野菜を多く作付けすることができた。
- ・農地の集約化が図られ、担い手による規模拡大が容易になった。
- ・農地の集団化、集積することで農作業が高効率、高生産ができて経営が良くなった。
- ・1枚が大区画になったため、施設園芸（ビニルハウス）が1圃場に建てられ管理作業も良くなった。
- ・今後に向けて休耕地をなくすためにも、地球環境保全のためにも生き物（ホタル、ドジョウ）、植物空間も創造するとよい圃場となるでしょう。
- ・水質保全にも効果が大である。
- ・採光通風の向上により、作物品質が高まった。
- ・当地区以外の未整備地区に対して積極的に推進し、耕作放棄地の解消、また、作業効率の向上により農業を魅力ある職業として、次世代へつなげていければよいと思う。

### 【非農家】

- ・畦畔が大きく草刈りが大変そうである。
- ・ホタルが飛ぶ水路にして欲しい。
- ・道路が整備されたが、交通量も増え危険になり、ゴミの投げ捨ても多くなった。
- ・道路、用排水路が良くなり、生活環境が良くなった。

栃木県 農政部 農地整備課

TEL : 028-623-2364 FAX : 028-623-2378

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g07/index.html>

E-mail : nochi-seibi@pref.tochigi.lg.jp

